

## 2022年度第1回(第37期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 2022年6月27日(月)午前10時から午前11時40分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 第3委員会室
- 3 出席状況  
 委員 近藤潤子委員、澤根緑委員、白岩伸也委員、  
 中村朋子委員、飛田ひさ子委員、晝馬るみ委員、  
 松井里華委員、松本孝久委員、村上剛委員、山本巖委員  
 事務局 宮崎教育長、嶋野文化振興担当部長、  
 鈴木生涯学習担当課長、中村生涯学習推進グループ長、  
 遠部指導主事、萩原主任  
 欠席委員 なし
- 4 傍聴者 1人(一般:0人、記者:1人)
- 5 議事内容  
 1 正・副委員長の選出  
 2 第37期浜松市社会教育委員の活動  
 3 本市の主要事業における実績及び計画  
 ① 2021年度生涯学習事業報告・2022年度学習事業計画  
 ② 各区2021年度生涯学習事業報告・2022年度学習事業計画
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ  
 遠部佳代子、今井千晶
- 7 記録の方法 発言者の要点記録  
 録音の有無 無
- 8 会議記録

- 1 開会  
 2 委員委嘱  
 3 教育長あいさつ  
 4 職員紹介  
 5 議事  
 (1) 正・副委員長の選出  
事務局から、資料に基づき、社会教育委員の設置根拠等を説明

■選出

(事務局)

正・副委員長については、「浜松市社会教育委員条例施行規則」第3条第1項に「委員会に委員長及び副委員長をそれぞれ1人置く」とあり、同条第2項に「委員長及び副委員長は、委員の互選により定める」となっている。この規定に従い選出していただきたい。

(近藤潤子委員)

委員長は、前第36期からの継続委員で副委員長を務められ元特別支援学校校長、現在は民生委員児童委員として学校教育、社会教育の双方について幅広いご経験や実績をお持ちの晝馬るみ委員にお願いしたい。

(事務局)

他の委員の皆様はいかがか。

(他の委員)

(拍手) 異議なし。

(事務局)

晝馬委員、いかがか。

(晝馬るみ委員)

《承諾》

(事務局)

副委員長についても、「互選により定める」となっている。いかがか。

(晝馬委員長)

学識経験者として幅広い見識をお持ちであり、若い世代の視点や感性を身近に感じながら前36期から継続して議論を重ねている白岩伸也委員にお願いをしたい。

(事務局)

他の委員の皆様はいかがか。

(他の委員)

(拍手) 異議なし。

(事務局)

白岩委員、いかがか。

(白岩伸也委員)

《承諾》

(2) 第37期浜松市社会教育委員の活動

- 事務局から、前36期の社会教育委員の活動実績と今期の活動スケジュールについて説明

(3) 本市の主要事業における実績及び計画

①2021年度生涯学習事業報告・2022年度学習事業計画

②各区2021年度生涯学習事業報告・2022年度学習事業計画

- 事務局から、2021年度の実績報告、及び2022年度計画について説明

(晝馬委員長)

第37期の最初の会になるので、生涯学習、社会教育に対する思いや考えも含め意見を聞かせていただきたい。

(澤根緑委員)

生涯学習に初めて関わったのは、30年前。公民館（協働センター）の講座に参加して、今も継続して参加している。現在は、講座受講以外にも協働センターと様々な係わりがある。民生委員児童委員や浜松市学習支援事業のお手伝い、学校運営協議会委員をしており、協働センターのコミュニティ担当職員と関わっている。様々なつながりの中で、地域の子は地域で育てることを目指し、子供が地域から一度離れても、戻ってこられる場所にしていきたいと考えている。そのためにも、学校と地域みんなに関わり合っって子どもを育てることが大切だと考える。新津協働センターと新津小・中学校で制作した「地域かるたは」地域を知るためにはとてもよいものだと思う。新津地区、南区がさらに活性化できるよう協力していきたい。

(晝馬るみ委員長)

区によって取り組みが違う中、澤根委員には新津地区の取り組みを聞かせていただいた。他の地区での取り組みがあれば、聞かせていただきたい。

(中村朋子委員)

観音山少年自然の家に勤めていたとき、リピーターは多かったが、新規利用者を増やすために、広報活動に力を入れていた。生涯学習人財育成事業で、新たな担い手を育てる工夫をし、生涯学習講師スキルアップ講座に参加する人が増えてきていることはすばらしいと感じた。学校運営協議会のメンバーなので、社会教育と学校教育の架け橋となれるよう、そして「本物に触れさせたい」という校長先生の思いに、近づける努力をしていきたい。

(晝馬委員長)

担い手を育てるということは、社会教育を発展させていくうえでとても重要なことだと思う。市として力を入れていることを聞かせていただきたい。

(事務局)

生涯学習講師登録者や登録希望者に、生涯学習講師スキルアップ講座に参加していただくことで、直接お会いしてお話をさせていただき、どのような方なのか知ることを大切にしている。生涯学習講師スキルアップ講座では、講師をされる皆さんに興味を持っていただけるようなテーマ（講座内容）にしたり、人気のある講師に講座を依頼したりして魅力ある講座になるように努めている。また、案内チラシのキャッチコピーを工夫して、参加者が少しでも増えるように努めている。

(飛田ひさ子委員)

高台ワピの会長をしている。ワピは、アフリカの言葉で「居場所」という意味。高台地区の萩丘に住んでいるが、協働センターまで遠くなかなか講座に参加したり、協働センターで活動したりすることができない。その状況下では、地域活動の活性化ができない。地域のためにと考え、行動しようと思っても、協働センターまで歩いていくことができないなら、団体を立ち上げたらどうかとの声があり、協働センターが協力、後押ししてくれて立ち上げたグループが高台ワピである。何かボランティア活動をしようとする時、1回目は多くの人が協力してくれてうまくいくが、継続して実施していくことは難しいと感じている。一つのことを始めるために、とても多くの人が動いてくれて、頭が下がる思いだった。自分たちの活動同様に、浜松市全区において様々な活動が行われていると聞いて、浜松市はとても豊かな街だと感じた。

(晝馬委員長)

団体の立ち上げまでの苦勞を聞かせていただいた。どの活動も、継続のための工夫が必要であると考えます。

(山本巖委員)

平成12年から平成14年の3年間、西部教育事務所社会教育課社会教育専門員として佐久間町の生涯学習の推進に努めた。月に1回各市町の専門員が集まり、どうい活動をしているかを報告し交流していた。他市町社会教育の取組を知ることができ、とても貴重な体験であった。浜松市の社会教育の現状を知り、発展してきたことを感じた。南区のデジタル地域愛称マップが素晴らしいので、浜松市全地域にも広げられるとよい。

西区の入野と、天竜区の水窪の交流のきっかけを教えてください。また、各地区の生涯学習担当者の情報交換は、どうやっ行われているか教えてください。よい事例は、どんどん全区に広がっていくとよいと思う。

(事務局)

入野協働センターと水窪協働センターの交流は、それぞれの職員の熱い思いにより交流が始まった。

各区の所長会議と職員会議が月1回行われ、情報交換や意見交換等を行っている。浜松市内の全地区職員が集まる研修会は、年に数回実施している。さらに情報が共有できるよう努めていく。

(村上剛委員)

車のデザイナーだった経験を活かし、大学の講師を務めた。今は、西部協働センター、東部センター、積志協働センターで活動をしている。協働センターで活動する人の数が年々減っていることを感じる。講座は、1回で終わりではなく継続していくこと、裾野を広げていくこと大切である。学びを通した一人ひとりの幸せが社会を幸せにすることにつながっていく。そのために、地域の活動に参加しない人が、参加できるようなしかけができるとよい。

(松本孝久委員)

小学校3・4年生の総合的な学習で地域マップを作っている。浜松市全地域においてデジタル地域愛称マップができるとよい。

新学習指導要領になり「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念がある。学校だけで子供を育てることには無理があり、社会総がかりで育てていく方向に動いている。社会教育についても様々な分野の多くの人力を借りて推進していく流れになっている。

15年位前に科学館に勤めていたが、広報活動が一番大変だった。どんなによいイベントを計画しても、市民の耳に入らなければ人は集まらない。行政と市民のパイプ役になるのが、私たち社会教育委員だと思う。具体的にどう実現していくかが課題だと感じた。

(晝馬委員長)

前期の社会教育委員会でも、広報については話題になった。SNSの活用が具体的に行われている協働センター等があるか聞かせて欲しい。

(事務局)

南区、北区でSNS発信しており、講座の紹介もしている。また、浜松市ホームページには、各協働センターのページがあり、その中で講座について情報発信している。しかしながら、協働センターだよりで講座情報を知る市民が多い。まだ講座に参加したことがない方、特に男性にどう講座を知っていただくかは課題である。講座の内容についても、男の料理教室やコーヒー講座等、男性でも参加しやすい講座の企画をしている。また、継続して足を運んでいただけるように、内容がステップアップしていく講座も計画する等、工夫をしながら各センターで運営にあたって

いる。さらに講座への申込みをしやすくするために、2次元コードによる電子申込の対応も進めている。

科学館の広報については、四半期ごとにリーフレットを浜松市内全小・中学校に配布している。

(白岩伸也委員)

生涯学習事業実施計画書、報告書にある生涯学習施設などの事業概要・実績一覧にある、講座数・延参加者人数は、新型コロナウイルスの感染による影響で事業数等が増減しているのは分かるが、それが適正な数なのか教えていただきたい。

(事務局)

新型コロナウイルス感染拡大前の2019年の講座数(約1300講座)・延べ参加者数(約12万人)が、今後の期待も含めた適正な目標値であると考えられる。

(松井里華委員)

浜松市PTA連絡協議会で副会長を務めている。普段は保護者の代表として活動しているので、教育というと子供中心で考えてしまうが、子供以外の世代向けにもたくさん講座が開催されていることを知り、大人も学ぶことができる環境が十分にあると思った。浜松市全体で、様々な講座が開催されているので、自分の住む地域だけでなく、他の地域の講座にも申し込みができるとよいと思った。

浜松市PTA連絡協議会では、広報を担当している。広報誌の作成では、みなさんに見ていただけるよう、楽しい紙面づくりを心掛けている。本日もいただいたチラシも参考にしていきたい。そして、これからじっくり社会教育を学んでいきたい。

(晝馬委員長)

チラシ作りを学べる講座を昨年度生涯学習スキルアップ講座で実施していたが、今年度はどうか。

(事務局)

昨年度生涯学習講師スキルアップ講座を実施し、一昨年度は生涯学習施設職員研修会で「魅力あるチラシ作り」について学んだ。魅力あるチラシ作りだけでなく、口コミでも多くの市民に広がるような魅力ある講座運営に努めていきたい。

(澤根緑委員)

少しでも地域に興味のある方は、地域の活動に積極的に参加してくれる。PTAの若い世代の方が役員になったり、自治会の役員をやったりして、地域のことが少しずつ分かり、地域のために何かしたいと思うようになったという、貴重な意見を聞くことができた。仕事をしていたり、子育てをしていたりすると地域とつながることは、大変だと感じるようだが、参加してほしい。女性とともに、男性にも地域の活動に積極的に参加してもらいたい。

(晝馬委員長)

自治会役員を務める男性の皆さんにも、地域で活躍する女性の声に耳を傾け、より多くの活動を知ってもらえるとよい。

(澤根緑委員)

男性も、積極的に地域に関わり、地域の人に寄り添うなど、地域での男性の活躍に期待したい。

(晝馬委員長)

ボランティアは、やってみると自分のためになる。会社のために活躍してきた男性の方に、今度は地域のためにその力を生かしてもらえるように考えていきたい。

(近藤潤子委員)

健全育成会で行っている子ども講座も、参加者が年々減っている。新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催できなこともあったが、今年度は開催できそうである。小・中学生を対象に12月まで、子ども講座を開催する予定。講師は地区の方にいただいているが、高齢化により講師を続けられない人もいるので、次の世代へ引き継げるよう人材育成が大切だと思う。今年度から篠原地区もコミュニティ・スクールが始まり、人材育成の大切さを感じる。広報については、SNSと並行してチラシ配りも大切だと思う。高齢者の方にも、SNSを活用している人もいるが、情報を口コミで伝えるのもよい方法だと思う。

## 6 連絡事項

■事務局から以下の内容について連絡

- ・浜松市と大学との連携事業【連絡資料】
- ・各種研修会
- ・次回開催予定 第2回：10月25日（火）午後1時～午後4時  
会 場：浜松科学館

## 7 閉会